

6 被害想定の詳細検討

<考え方>

被害の詳細把握は、深層崩壊に起因する氾濫範囲内の資産・重要施設等の分布状況、地形の詳細などを設定・把握するためを行う。

<標準>

<手段>

被害の詳細把握は、以下の手法によって行うことを標準とする。
氾濫範囲の評価を行う二次元計算はメッシュ標高を使用しているため、河川の比高・保全対象と氾濫範囲の位置関係について、現地で照査を行う。